

平成27年度大会シンポジウム

保険業をめぐるグローバル化の 背景と動向

小樽商科大学
中浜 隆

1. はじめに

- 本報告の内容
 - ① 1990年代以降における保険業のグローバル化(グローバル化)の要因(背景)
 - ② 保険会社の海外進出の動向
 - ③ 国際保険資本規制の制定
- 1990年代以降においてどのような新しい事象が生じているのか(1990年代以降の特徴)

2. 1990年代以降における保険業のグローバル化の要因(背景)

(1) 国内的・域内的要因

- ① 金融サービス分野の規制緩和・自由化
- ② 金融・保険グループの形成・成長とそれに伴う競争激化
- ③ 人口動態の変化(少子高齢化、人口減少)

① 金融サービス分野の規制緩和・自由化

- アメリカ

1999年金融サービス現代化法の制定

- ヨーロッパ(EU)

1992年の損害保険と生命保険の第三次指令の採択

- 日本

1995年の保険業法の全面改正

1998年の損害保険料率の自由化

(2) 国際的要因

- 東ヨーロッパ諸国における社会主義体制の崩壊とその後の民主化・市場化
- 貿易・投資の自由化の推進
1995年のWTOの設立
- 新興国(BRICSなど)における経済改革と経済成長
- 保険市場の拡大
新興国の人口増加と経済成長が大きな要因

表 1 大陸別の人口の推移

(単位:百万人)

	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	アジア	ヨーロッパ	オセアニア	合計
1980年	479 (10.8%)	371 (8.3%)	242 (5.4%)	2,644 (59.4%)	695 (15.6%)	23 (0.5%)	4,453 (100.0%)
1990年	630 (11.9%)	424 (8.0%)	297 (5.6%)	3,189 (60.3%)	723 (13.7%)	26 (0.5%)	5,289 (100.0%)
2000年	803 (13.2%)	486 (8.0%)	348 (5.7%)	3,691 (60.6%)	730 (12.0%)	30 (0.5%)	6,089 (100.0%)
2010年	1,015 (14.8%)	539 (7.9%)	396 (5.8%)	4,133 (60.3%)	734 (10.7%)	35 (0.5%)	6,853 (100.0%)
2020年	1,261 (16.6%)	595 (7.8%)	440 (5.8%)	4,531 (59.6%)	731 (9.6%)	39 (0.5%)	7,597 (100.0%)
2030年	1,532 (18.5%)	648 (7.8%)	477 (5.8%)	4,841 (58.6%)	718 (8.7%)	43 (0.5%)	8,259 (100.0%)
2040年	1,827 (20.7%)	695 (7.9%)	504 (5.7%)	5,049 (57.2%)	698 (7.9%)	46 (0.5%)	8,820 (100.0%)
2050年	2,138 (23.0%)	739 (8.0%)	520 (5.6%)	5,167 (55.7%)	671 (7.2%)	49 (0.5%)	9,284 (100.0%)

(出典) U.S. Census Bureau (2012)

表2 大陸別の人口増加

(単位:百万人)

	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	アジア	ヨーロッパ	オセア ニア	合 計
1980年 ～ 2010年	536 (22.3%)	168 (7.0%)	154 (6.4%)	1,489 (62.0%)	39 (1.6%)	12 (0.5%)	2,400 (100.0%)
2010年 ～ 2040年	812 (41.3%)	156 (7.9%)	108 (5.5%)	916 (46.6%)	-36 (-1.8%)	11 (0.6%)	1,967 (100.0%)

(出典) 表1に同じ

「衣食住足りて保険」

- とくに家計保険の需要（普及）は国民1人当たりのGDPの水準に大きくかかわる
- 人保険の需要（普及）は社会保障制度に大きくかかわる

表3 G7・BRICS・ASEAN5か国のGDPの推移
(単位:10億米ドル)

	1980年	1990年	2000年	2010年	2015年	2020年
G7	6,814	14,787	21,778	32,684	34,530	42,488
BRICS	725 (10.6)	1,321 (8.9)	2,723 (12.5)	11,768 (36.0)	16,924 (49.0)	24,641 (58.0)
ASEAN 5	225 (3.3)	322 (2.2)	508 (2.3)	1,634 (5.0)	2,122 (6.1)	3,170 (7.5)

(注) (1) 2015年と2020年は予測値

(2) ASEAN5はインドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム

(3) BRICSの1980年と1990年はロシアを除く

(4) カッコ内の数値はG7のGDP(=100)に対する比率

(出典) IMF (2014)

表4 BRICSとASEAN5か国の2013年の保険密度
(国民1人当たりの保険料)

(単位:米ドル)

	生命保険業	損害保険業	生損保業
日本	3,346	861	4,207
ブラジル	246 (7.4)	197 (22.9)	443 (10.5)
ロシア	19 (0.6)	180 (20.9)	199 (4.7)
インド	41 (1.2)	11 (1.3)	52 (1.2)
中国	110 (3.3)	91 (10.6)	201 (4.8)
南アフリカ	844 (25.2)	181 (21.0)	1,025 (24.4)
フィリピン	41 (1.1)	12 (1.4)	54 (1.3)
ベトナム	11 (0.3)	12 (1.4)	23 (0.5)
インドネシア	59 (1.8)	18 (2.1)	77 (1.8)
タイ	214 (6.4)	96 (11.1)	310 (7.4)
マレーシア	341 (10.2)	176 (20.4)	518 (12.3)

(注) カッコ内の数値は日本の保険料(=100)に対する比率

(出典) Swiss Re (2014)

3. 保険会社の海外進出の動向

- 保険会社の海外進出は、1990年代以前にも見られた
- 第一次大戦前にも当時の先進国の保険会社が他の先進国や新興国に進出した事例（塗,1983）
- 保険会社の海外進出は、保険引受業務が先行し、資産運用業務は比較的新しい事象

- 1990年代以降、先進国の保険会社(金融・資本グループ)がグループ内の企業を通じて銀行・証券・保険業務を展開
- トラベラーズ
1997年、ソロモン・ブラザーズ(投資銀行)を買収
1998年、シティコープ(銀行持株会社)を買収
- ステート・ファーム、メットライフ
- アリアンツ
2001年 ドレスナー銀行を買収
- しかし、2008年のリーマンショック後、後退

日本の保険会社

- 1990年代以前
おもに日系企業の保険を引き受ける
- 1990年代以降
現地企業や国民の保険も引き受ける
- 資産運用業務と保険引受業務のグローバル性とドメスティック性
- 保険引受業務のドメスティック性から生じる新たな課題に取り組む必要

4. 国際保険資本規制の制定

- 保険監督者国際機構 (IAIS) が国際保険資本規制を策定
- 保険基本原則
保険会社 (保険グループ) に適用
- ComFrame
国際的に活動する保険グループ (IAIG) に適用
- G-SIIs Package
システム上重要なグローバルな保険会社 (G-SIIs) に適用

Cummins and Venard (2007, 2008)

(1) 世界的類似性 (global similarities)

- ① グローバルな保険商品
- ② 保険商品の洗練化
- ③ グローバルなリスク (ex. テロリズム、巨大自然災害)
- ④ 再保険市場
- ⑤ リスクの分散化
- ⑥ 外国保険者の自国市場への参入

- ⑦ 規制緩和
- ⑧ 国際機関 (ex. WTO) の国際ビジネスへの
関与
- ⑨ 広域経済圏 (ex. EU) の誕生
- ⑩ 民営化
- ⑪ 技術の進歩
- ⑫ 年金・医療保険改革
- ⑬ 保険販売システムの進展

(2) 地域的多様性 (local differences)

- ① 保険用語
- ② 経済発展の度合い
- ③ 金融市場
- ④ 政治システム
- ⑤ 人口動態
- ⑥ 規制
- ⑦ 料率協定
- ⑧ 保険業における e-commerce の役割

- ⑨ 主要な保険販売チャネル
- ⑩ バンカシュアランス
- ⑪ 保険商品の構成
- ⑫ 保険会社の戦略

5. おわりに

- 1990年代以降における①金融・保険グループの形成・成長、②新興国の経済発展と保険市場の拡大、③国際保険資本規制の制定と各国・地域の保険監督体制の整備・構築（保険監督規制の国際標準化）は、保険業の歴史において新たな段階に入ったことを示しているといえるであろう
- 今後、個々の保険会社で見ると海外進出と撤退は繰り返されるであろうが、保険会社全体（保険業）で見ると海外業務の比重は傾向的に高まっていくであろう

主要参考文献

- 有田礼司(2011)「損害保険会社の海外進出と新展開」田畑康人・岡村国和(編著)『人口減少時代の保険業』(第8章所収)慶應義塾大学出版会
- 金田幸二(2009)「金融危機と金融・保険グループ規制の動向」『損保総研レポート』第87号
- -----(2010)「金融・保険グループ規制の動向－EUおよび米国の動向を中心として－」『損保総研レポート』第91号
- -----(2011)「金融・保険グループ規制の動向－EUの金融コングロマリット指令および米国の保険グループ規制等を中心として－」『損保総研レポート』第95号
- -----(2015)「国際保険資本規制の動向－銀行のバーゼルⅢとの比較を踏まえて－」『損保総研レポート』第110号
- 河崎信樹(2013)「グローバル化と国際経済システム」渋谷博史・河崎信樹・田村太一(編)『世界経済とグローバル化』(第1章所収)学文社
- 五味正夫(2006)「保険事業のグローバル化と規制・監督の国際標準化」堀田一吉・岡村国和・石田成則(編著)『保険進化と保険事業』(第12章所収)慶應義塾大学出版会
- 渋谷博史(2013)「グローバル化とアメリカ・モデルの視点」渋谷博史・河崎信樹・田村太一(編)『世界経済とグローバル化』(序章所収)学文社
- 高島浩一(2002)「米国保険会社の銀行業務進出状況」『生命保険経営』第70巻第3号
- 谷口哲也(2012)「アジアにおける生命保険事業展開」『保険学雑誌』第616号
- 塗明憲(1983)『国際保険経営論』千倉書房
- 野村秀明(2012)「損害保険会社の海外事業展開」『保険学雑誌』第616号
- 堀田一吉(2011)「人口減少時代の到来と保険業への影響」田畑康人・岡村国和(編著)『人口減少時代の保険業』(第1章所収)慶應義塾大学出版会
- 宮村健一郎(2013)「アメリカ保険会社の銀行業への進出」『経営論集』(東洋大学)第81号

- Cummins, J. David and Bertrand Venard (2007) *Handbook of International Insurance: Between Global Dynamics and Local Contingencies*. New York: Springer.
- ----- (2008) “Insurance Market Dynamics: Between Global Developments and Local Contingencies.” *Risk Management and Insurance Review*, Vol.11, No.2.
- IMF (2014) World Economic Outlook Database (April 2015 Edition)
- Swiss Re (2014) *Sigma*, No.3
- U.S. Census Bureau (2012) *Statistical Abstract of the United States: 2012-2013* (131th Edition), Washington, DC.